sification of the Phaeophyta. *In* Abbott, I. A. & Kurogi, M. (ed.) : Contributions to the systematics of benthic marine algae of the North Pacific. pp. 147-155, Kobe.

* * * *

本報告ではイソガワラ科に属するエンドプルラ属の1種 *Endoplura aurea* とディプルラ属の1種 *Diplura simplex* (新種) の記載を行った。

Endoplura aurea は主として次の分類学上の特徴をもち，本邦では本州太平洋沿岸北部から中部にかけて広く分布することが判明した。1) 栄養細胞は数個の葉緑体をもつ; 2) 複室生殖糸は体内に埋まって形成され，体を構成する直立糸上に一般に2本，時に4本できる。それらの頂部には3個連続した大形の不稔細胞が存在する。*Diplura simplex* は八丈島及び伊豆半島沿岸で新たに採集された種で，1) 栄養細胞は数個の葉緑体をもち，2) 体を構成する直立糸上に1対の複室生殖糸が形成され，それぞれの生殖糸は頂端に1個の不稔細胞をもつことでディプルラ属に所属し，既知種 *Diplura simulans* とは 1) 体が薄いこと，及び 2) 直立糸が分枝しないことで区別される。

□唐澤耕司：**原種洋ラン** pp. 221, pls. 128. 1981. 誠文堂新光社，東京．¥3800. ラン科はイネ科やマメ科と共に種類数でも圧倒的に多いが，花の多型と美麗とでは群を抜いている。まして人工新種でも花中の王者である。本書はどちらかというと野生の原種の美しさにひかれて凡そ200属500種程を集めたもので，これを属を大体分類で並べ，各頁に大体3～4枚適当に配列し，巻尾にその解説を挙げている。大きな属ではたとえば *Dendrobium* 10ページ，*Oncidium* 6ページという具合に，小さな属は1種ずつ（たとえば *Cymbidiella*, *Paphinia* など）拾ってある。写真はカラーで中々美しく，見ていてあきない。索引には種名（変種，亜種名）のも作ってあるのもよい。（前川文夫）

□木村陽二郎：**シーボルトと日本の植物** 恒和選書 5, pp. 235. 1981. 恒和出版，東京．¥1,400. 著者がケンペルからツュンベリー，シーボルトに及ぶ三人の外人に対してこれに接触して影響を受けたりまた影響を与えたりした日本人とその著作について，ここ10年間に得たものをまとめたものということができる。割合に重複も少ないし，興味を以て読むことができよう。とくに日本最初の植物図鑑といわれる「訓蒙図彙」，伊藤伊兵衛の「地錦抄」，圭介の著わした日本の新らしい植物学としての「泰西本草名疏」の解説と意義とに詳しい。近年大分改めてみとめられつつある近代の日本における植物学の導入と発展の跡を辿るにまことにふさわしい業績というべきである。（前川文夫）